



『認め合い、支え合い』

平原区 土屋又生さん
土屋信枝さん



今回紹介するのは、平原区の土屋ご夫妻。お話を伺いにご自宅へお邪魔しました。まず、見事な日本庭園に圧倒されます。話を聞くと、今年90になる又生さんが自分で管理されているとのこと。その健康と若々しさに驚かされます。

社交ダンスとの出会い

若いころは実業団駅伝の選手として活躍された又生さんですが、その健脚が逆に悪さをし、定年間際からギックリ腰を繰り返します。

東洋医学の名医に巡り合い腰は治ったものの、「健康は大事だ！何か運動をしなくちゃ！」と信枝さんと一緒に社交ダンスを始めたのが70歳の頃。いざ始めてみるとすっかり魅了された2人。

いまでも続けているダンスですが、一時は、西へ東へ毎日違う教室へ通っていたというのだから、その熱意は筋金入りです。部屋に飾られた、凛々しく、そして艶やかな写真がその証です。



恩返しのご気持ち

お話を伺いながら、いただいたのがシソジュースと梅のぼたぼた漬け。これも、多趣味な信枝さんの作品のひとつ。信枝さんの朝は、5時半か



らの畑仕事で始まります。そこでは一通りの野菜に留まらず、もも、りんご、ぶどうまで手掛けます。今では、それらの加工品のお裾分けを楽しみにしてくれている人が50人以上いるのだとか。

「平原に越してきてみんなに良くしてもらった。お世話になった皆さんに感謝している。自分だけが幸せじゃ、だめなんです！」と語る信枝さん。お菓子作りのボランティアも、そんな恩返しのご気持ちから続けている活動です。

支え合っているから

ときにそれぞれ、ときに一緒に、多くの活動に精を出されていく土屋夫妻ですが、それを可能にしているのは、お互いに理解し合い、支える気持ちがあるから。

「自分がやりたいことができていくのも、お父さんのお

かけ。出かけるときは車を出してくれりし、私の趣味をよく理解してくれるので、とてもよく助けてくれます。」と信枝さん。

そんな二人の関係を象徴的に表わす逸話があります。

ある日、咳をする信枝さん。又生さんが言います。「ずいぶん長いこと、咳が続いているんじゃないか？病院にいかう。」自分では気にしていなかった信枝さんですが、言われる通りに病院にいくと、なんと甲状腺がんが発覚。病院では「あと一ヶ月遅ければ、危なかった。」と驚かれたそ

うです。

一方の又生さんにも危機が。冬のある日、農作業から戻った小屋の中で卒倒。脳梗塞でした。助けを呼ぶ間もなかった又生さんですが、戻りが遅いことにいち早く気付いた信枝さんが、その窮地を救いました。

お互いのことを、まるで自分のことのように笑顔で話してくれた又生さんと信枝さん。互いを理解し合い、支え合うことが、毎日を元気に楽しく過ごす一番の秘訣でしょうか。

公民館報事務局
塩川 弘太郎



川柳浅間吟社

- 荒草も素早いものが茎太く 土屋 正示
- お笑いが好きな家族のこの平和 荻原 榮子
- 悔しさを鋼のバネに打ち直す 桜井 眞紗子
- 思い切り深呼吸する里の駅 掛川 タユ子
- 二の舞いは踏まぬカラスと知恵くらべ 中山 紀子
- 人間を仮面仕立てにする虚飾 小林 峰男